MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２２．１２．３１　発行元
第 432 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

辻 真先の代表作

今も書き続けている辻真先の代表作を取り上げる。『たかが殺人じゃないか』などの最近の話題作は既に紹介しているので、ここでは初期の作品の中から選ぶことにする。どれを読んでも面白い作品ばかり。

たくさんの作品の中から

辻真先が書いたミステリ作品は約２００冊弱ある。スタートは朝日ソノラマ文庫で、一見ジュニアものに見えるのだが、中身はミステリマニアを唸らせる凝った仕掛けが満載なのである。作者の多才で多方面に渡る興味がそのまま作品作りに生かされている印象。

代表作は初期の作品の中から選んだ。第一はもちろん薩次キリコ・シリーズ。三部作の中から『改訂・受験殺人事件』を取り上げることに。その後も『ＴＶアニメ殺人事件』以降に繋がるのだが、最初の三作の衝撃は非常に大きい。

第二としては意欲作として新局面を開いた『アリスの国の殺人』。このミステリ世界への挑戦みたいなものが辻真先の本領のように感じている。世間的に見れば、カッパノベルスから出ていた『迷犬ルパン』シリーズの方が売り上げは大きかっただろう。でも、私は本格謎解き要素の強い作品の方を高く評価したいと考えている。

第三は当時の流行であったトラベルミステリということで、『死体が私を追いかける』にした。作者の列車好き、旅行好きが遺憾なく発揮されたシリーズと言えるだろう。

NO.3『死体が私を追いかける』

私の手元にあるのは１９７９年主婦と生活社の２１世紀ノベルス初版。瓜生慎と真由子シリーズの第一作となる。辻真先のトラベルミステリの原点みたいになった本。この時点では真由子は三ツ江姓で、まだ女子大生。冒頭、真由子が家出をし、三ツ江通産社長のパパがあたふたする場面からスタートする。九州・太宰府天満宮でトラベルライターの慎(シン)と真由子が出会う。ここから全国各地への旅行が始まり、それに合わせるように次々と死体が生まれるというストーリー。温泉、ブルートレイン、密室殺人…辻好みの題材が列挙してある。カバーに「青春ユーモア推理」と表示されているように、初期作品は楽しめるドタバタのパターンが多い。

NO.1『改訂・受験殺人事件』

１９７７年朝日ソノラマ文庫。『仮題・中学殺人事件』『盗作・高校殺人事件』に続くシリーズ第三作。この三冊セットで担任していたクラスの学級文庫に入れておいたなら、表紙がボロボロになった後、行方不明になった。今、私の手元にある本は１９９０年に東京創元社から出た『合本・青春殺人事件』。これには３作品が収められている。出版順に読むのが正しい読み方。ただ、内容的には『改訂・受験殺人事件』が一番まとまっているかなと考えて代表作の第一にした。

最初に「西郊高校校歌」が出てくる。この歌詞の中に「翼ひろげて」「血と泥あびて」「英雄のひとりとなりて」という語句が登場する。その次が「犯人のはしがき」で、「私が真犯人なのだ」という宣言が出てくる。このシリーズ、『仮題・中学』では「○○が犯人」、『盗作・高校』では「●●が犯人」という衝撃的な設定を読者に示しているので、この『改訂・受験』でもその点が注目の的なのである。出版社の依頼により、可能キリコ(スーパー)と牧薩次(ポテト)の共著の形で記述が進んでいく。学園祭が行われた後、校内きっての秀才と言われた男子生徒が校舎から飛び降りたのだが、死体が発見されたのはそれから４時間も経ってからだった。

No.2『アリスの国の殺人』

１９８１年大和書房。『夢の図書館シリーズ』と銘打たれた大和書房の一連の本は面白い企画だった。天藤真の『遠きに目ありて』や赤川次郎の『冬の旅人』などが含まれている。辻真先作品で言うと、本書の後には『天使の殺人』が出ている。現在の徳間文庫版はどうなっているのか確認していないが、いろんな工夫と仕掛けがなされた構成だった。一段組みの「アリスの世界」と二段組みの「現実世界」とが交互に出てくるだけでなく、文中の字がひっくり返ったり裏返しになったり、行が曲線状にくねったりと不思議の世界だらけだった。日本推理作家協会賞受賞作品。

夢の中の話なのだろうか。幻想館の編集者・綿畑克二はアリスと腕を組んで結婚式らしきものに臨んでいるのだった。トランプの女王や帽子屋が出てきて、やがて密室でのチェシャ猫殺しの話になり、ニャロメやヒゲオヤジも登場して…。一方現実の世界では、スナック「蟻巣」のカウンターで綿畑は目を覚まし、編集の仕事のあれこれに振り回され続ける。こちらでもまた殺人事件が持ち上がり、表と裏の出来事が不思議に交錯して混乱状態に陥っていく。これらを最後にすっきりと片づけるにはどうすればよいかというと…。